

**概要:** 被収容者の逃走を防ぐため、矯正施設における総合警備システム等の警備機器等について、使用年数・必要性等を考慮して更新整備し、その適正な稼働を確保する。

府省庁名: 法務省

## 【事例】総合警備システムの更新整備

- 実施主体: 東京拘置所
- 実施場所: 東京都葛飾区
- 事業概要: 高層建物に集約立体化された東京拘置所において、被収容者の逃走防止等のため、監視カメラ等の総合警備システムについて、経年劣化による機能低下を防ぐため、使用年数、必要性等を考慮して更新整備を実施。
- 事業費: 全体事業費約10億円  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約10億円)
- 効果: 大規模災害発生時等において、被収容者の逃走を防止するとともに、施設の適正な維持管理ができ、機能低下を防ぐ。

### 総合警備システムの経年劣化

- 各種カメラ、モニターの劣化等による画像の停止、不鮮明等の不具合・故障
- レコーダーの劣化による録画不能等
- 静脈認証装置、通行鍵管理システムの経年劣化による不具合



### 応援体制の遅延 事態の深刻・重症化

有事における総合警備システムの機能不全



応援体制の遅延による事態の深刻・重症化

### 総合警備システムの更新整備

- ▶ 施設の規律秩序の維持
- ▶ 早期発見による事故の早期収束
  - ▶ 被収容者への物的けん制
  - ▶ 保安事故の未然防止
  - ▶ 保安事故の減少



東京拘置所における総合警備システムイメージ(更新後)